



2023年 管内からの輸出が好調♪

🎸 38億円超え過去最高額を更新！

🎸 全国シェアで数量及び金額ともにトップ！

2023年の全国のエレキギターの輸出金額は過去最高となる65億円でした。そのうち名古屋税関管内からの輸出は特に多く、輸出金額は38億円で全国シェア59%、輸出数量は44,549本で全国シェアの61%を占めています。

エレキギターは新品、中古を問わず「北米」、「ヨーロッパ」及び「アジア」を中心に、世界各国へ輸出されており、近年では特に中国への輸出の増加が顕著となっています。

そこで、今回はエレキギターの輸出動向について、貿易統計資料及び輸出者へのヒアリングをもとに紹介していきます。



参考：ピックアップ

エレキギターとは、木のボディの上にピックアップ（弦の振動を電気に変える装置）などの部品がついていて、鉄弦が張ってあり、そのまま引くと音は小さいですが、機械を使って電気的に音を增幅させる楽器です。

ギターは長い歴史を持つ楽器ですが、近代になって多くの楽器が改良を重ねられていくなかで、特に音量の面で遅れを取っていました。

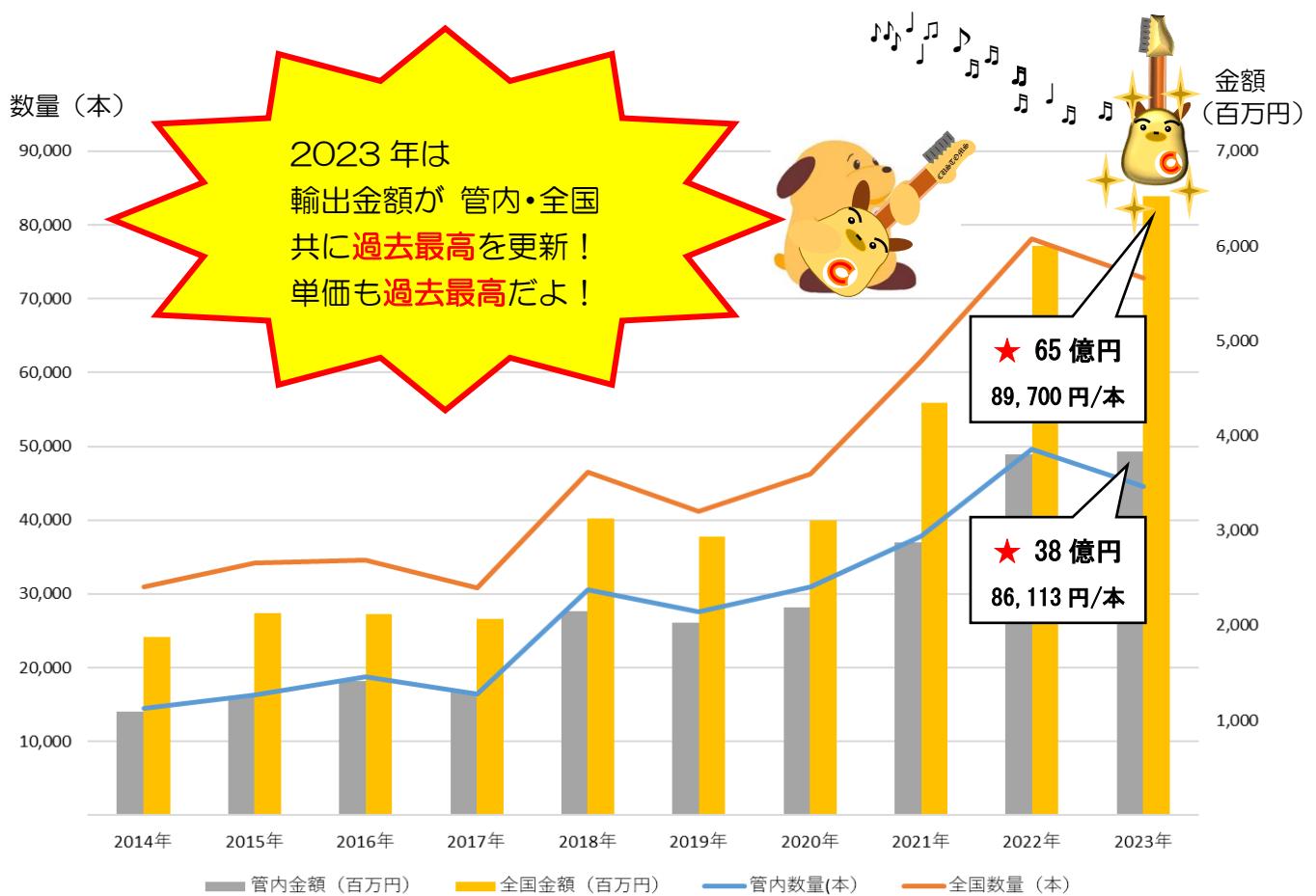
そうしたなか、ジャズギタリストのチャーリー・クリスチャン（1916～1942）は、1936年頃、バンドのなかでもギターソロを弾くことをこころざし、アコースティックギター（旧来の生ギター）のボディにピックアップを付けたギターを使い始めました。

これが「エレキギター（エレクトリックギター）」の事始めといわれています。

【引用・画像】出典元：ヤマハ株式会社ホームページ『楽器解体全書』

本資料の輸出数量及び金額の「エレキギター」は、輸出統計品目番号「9207.90-100 電気ギター」に分類されたものを集計したものとなります。

1. 管内・全国 エレキギター輸出数量・金額推移



上の表は名古屋税関管内と全国におけるエレキギターの輸出数量・金額の推移です。2017年頃から数量・金額共に増加傾向にあり、コロナ禍にあった2019~20年に一旦減少し、2021年は自粛生活による「巣ごもり需要」が高まり大きく増加、2023年は数量がやや減少したものの

管内・全国において輸出金額が過去最高



を達成しました。また、エレキギターの単価においても過去最高となっております。

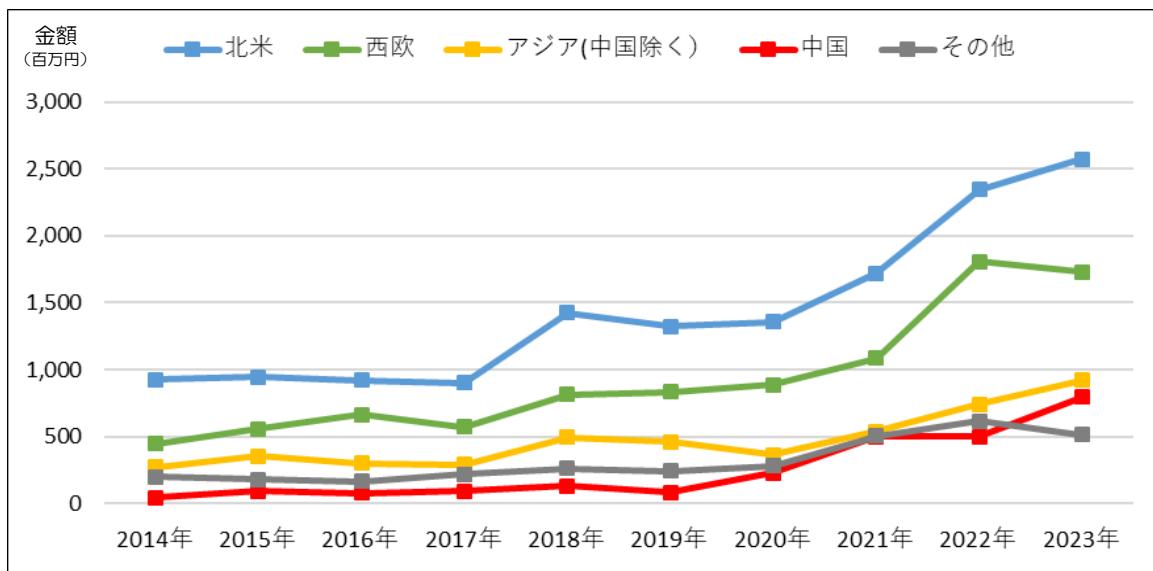
エレキギターの価格が高騰した理由として、コロナ禍からの影響による「ウッドショック」によって材料費が大きく高騰、その他にも製造コスト、人件費の増加、為替の影響等から各メーカーが販売価格を上げている状況があります。

また、近年の円安等の影響もあり、日本製の価格上昇は比較的緩やかな一方でジャパンヴィンテージ（主に1980年代頃に制作された日本製ギター）と呼ばれるギターが品質面での評価が高いことから、価値が見直され、価格が上昇してきているとのことです。

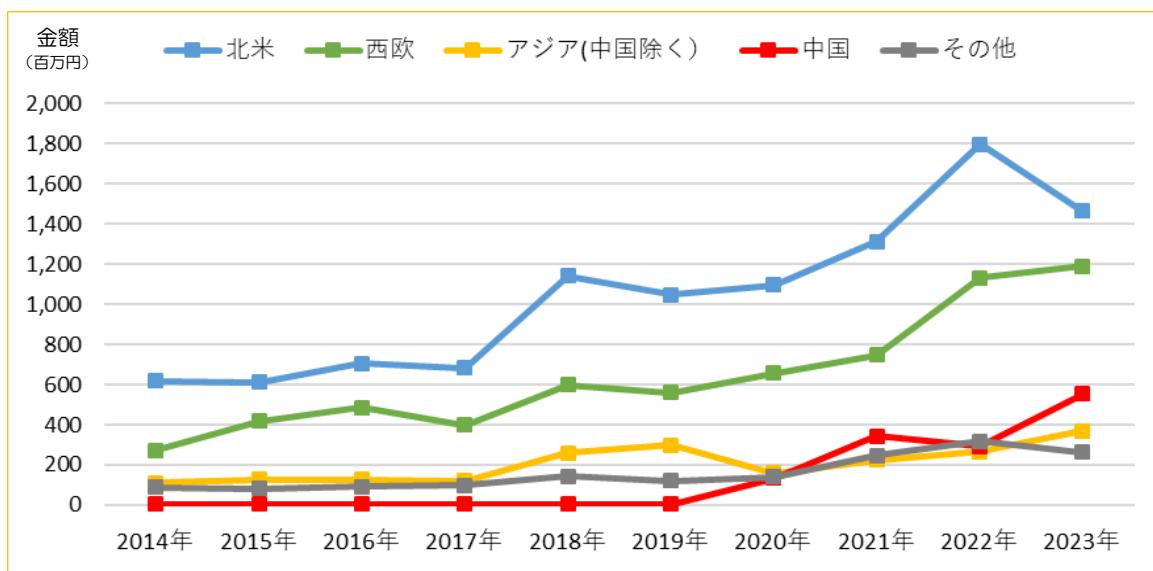
そのことから『日本製=高品質』というイメージが根付き、現行の日本製品においても相対的に評価が上がってきたこともエレキギターの価格を押し上げている要因のひとつとして考えられています。

2. 国・地域別 輸出金額の推移

【全 国】



【管 内】



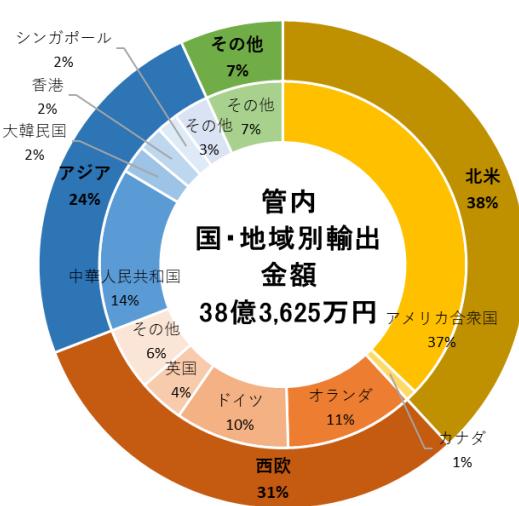
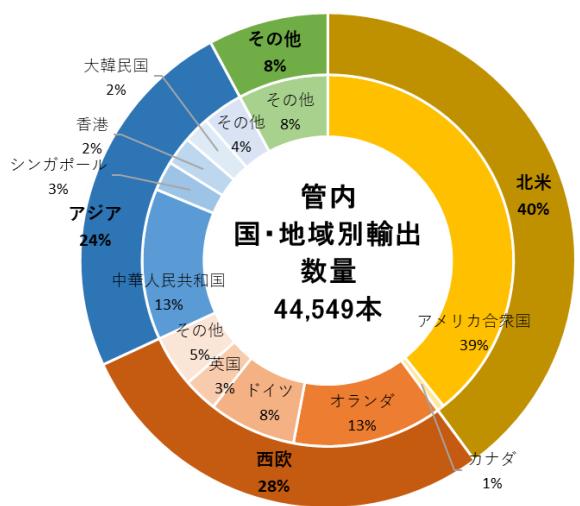
上記グラフ「国・地域ごとの輸出金額の推移」の全国と管内で比較すると、2023年は、全国では北米が増加、西欧が減少しておりますが、管内では逆に北米が減少し、西欧が増加傾向にあります。

それ以外のグラフの動きについては全国とほぼ同じですが、管内ではここ数年、アジア（中国除く）よりも、中国の輸出金額のほうが大きくなり、管内におけるエレキギターの輸出金額増加には、中国が大きく寄与していることがわかります。

近年、中国が大きく増加した要因として、中産階級の増加、可処分所得の増加、音楽教育への関心の高まりなどが挙げられます。他にも、ハイエンドギターの販売が好調であり、日本のアニメの影響等でエレキギターがブームとなっていることから、中国のギター市場は成長基調にあると言われています。

管内の中国へのエレキギター輸出金額は、直近10年間で490万円から5億5,224万円へと約113倍となり、輸出金額全体における中国のシェアは0.4%から14.4%に大きく増加、国別でみるとアメリカに次ぐ2位のシェアとなりました。

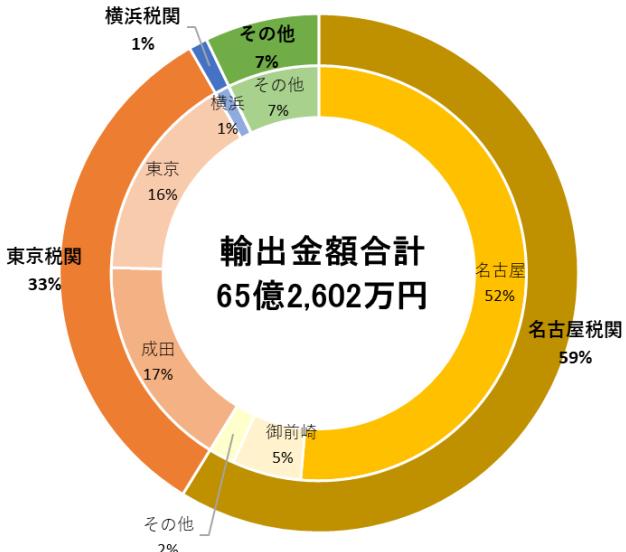
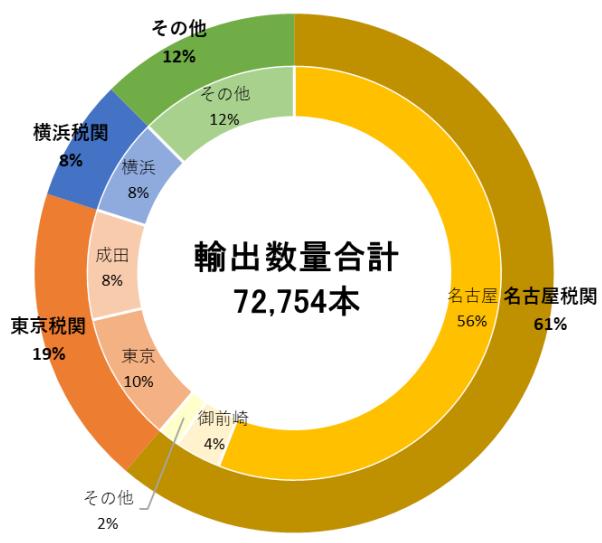
3. 管内における 国・地域別 輸出数量・金額 構成比【2023年】



2023年「管内における 国・地域別 輸出数量・金額 構成比」の上記グラフを見ると、北米が約40%、西欧が約30%、アジアが約25%、その他が約10%の構成となっています。

また、国別にみると、管内の輸出数量・金額ともにアメリカ、中国、オランダ、ドイツで管内全体の7割以上を占めていることがわかります。

4. 港別・税関別輸出数量・金額 構成比【2023年】



2023年「港別・税関別輸出数量・金額 構成比」の上記グラフを見ると、名古屋税関が輸出数量・金額ともに全国の約6割を占めていることがわかります。

また、港別でみると管内においては、名古屋港からの輸出が大半を占めています。名古屋港は愛知県内だけでなく、ギター生産が盛んな長野県の企業も多く利用しており、その影響は大きいと考えられます。

エレキギター生産の地・長野県

1960年代初めの日本では、まだエレキギターを弾くという文化は無いに等しく、国内の先行メーカー2社によりエレキギターの海外輸出がされている程度でした。

その後、1962年に長野県松本市のメーカーがアメリカ向けにギター製造をスタート。そこからエレキギターの生産が松本市の重要な産業の一つとなっていきます。

高度経済成長期には機械金属工業も盛んになったことで木工以外の需要にも対応できる土台ができ、部品の製造・調達から塗装に至るまでの工程を地元で行うことが可能となりました。

しかし、始まったばかりの頃のエレキギター生産は専門家がいるわけでもなく、職人たちが時には分解、研究し、試行錯誤しながら作られたそうです。

そんな先駆者たちの努力により品質が向上、海外におけるエレキブームもあり軌道に乗り、日に日に生産数が増加しました。

1970年代に入ると多くの海外ミュージシャンが来日するようになり、使用しているエレキギターが注目されるようになると、日本の音楽史でもギター広告が大々的に行われるようになり、国内にもエレキブームが到来して需要が高まりました。

信州産のギターはその品質の高さから海外ブランド数十社のOEM生産※を請け負うまでになり、国内外の有名ブランドを松本市の企業が牽引してきました。

※OEM生産：製造業者が他社ブランドの製品を製造すること

【参照】出典元：長野県『長野県魅力発信ブログ「長野県は日本一」』

豆知識：エレキギターのタイプ　～大きく分けて3種類～

① フルアコ

エレキギターの中ではもっとも歴史が古く、ボディの中は空洞なのが特徴。正式名「フルアコースティックギター」



② セミアコ

フルアコよりボディが薄いのが特徴。また、海外ではセミホロウと呼ばれるのが一般的。ボディの中央部分には木が詰まっていて左右は空洞になっている。

構造的にはソリッドとフルアコの中間。

正式名「セミアコースティックギター」



③ ソリッド

一枚板もしくは何種類かの板を接合し、空洞のない中身の詰まったボディが特徴。多くの方が想像するエレキギター。正式名「ソリッドギター」



【参照・画像】出典元：ヤマハ株式会社ホームページ『楽器解体全書』

エレキギターの材質

エレキギターのボディはカラフルな色で光沢もあり、金属やプラスチックだと思っている方も多いんじゃないの? どうですか?

実は、基本的には木でできており、木の種類や同じ木でも、目の詰まり方や木目のとおり方によって完成した時の重量や音が違ってくるそうです。そのため、同じメーカーの同じモデルであっても『世界に一本』しかないギターと言えるわけです。

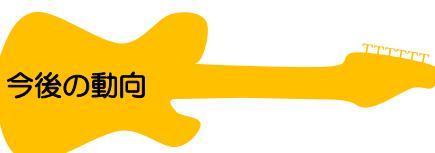
ボディ材に使用される定番の木材は、アルダー、アッシュ、マホガニーなどがあり、最近では、杢(もく)※複雑な模様のある木材の木目)入りフレイムメイプル、キルテッドメイプル、その他比較的希少なエキゾティックウッド類もボディ材として付加価値を与えていたことです。



すべてのギターは
オンリーワン



【画像】出典元：フジゲン株式会社ホームページ



今後の動向

輸出のエレキギターを取り扱う業界では、基本的には輸出先(国)の経済状況や、個人消費と一緒に伴う小売業の業績に大きく影響を受けることから予想は難しいとされているものの、前述のとおり日本製=高品質という世界各国からのイメージもあることから、日本のエレキギターの輸出は今後も堅調に推移していくと期待されています。



【取材協力】(順不同)

- ・フジゲン 株式会社
- ・ヤマハ 株式会社
- ・株式会社 ダイナ楽器
- ・長野県産業労働部 営業局
- ・星野楽器 株式会社

資料編

1. 輸出推移

年	名古屋税関				全国			
	数量(本)	前年比	金額(千円)	前年比	数量(本)	前年比	金額(千円)	前年比
2014年	14,491	100.45%	1,095,553	104.87%	30,912	89.14%	1,878,318	100.64%
2015年	16,315	112.59%	1,242,272	113.39%	34,176	110.56%	2,127,608	113.27%
2016年	18,824	115.38%	1,411,831	113.65%	34,516	100.99%	2,118,466	99.57%
2017年	16,411	87.18%	1,304,634	92.41%	30,782	89.18%	2,067,042	97.57%
2018年	30,587	186.38%	2,146,020	164.49%	46,549	151.22%	3,123,588	151.11%
2019年	27,615	90.28%	2,032,882	94.73%	41,181	88.47%	2,932,875	93.89%
2020年	30,931	112.01%	2,185,546	107.51%	46,241	112.29%	3,110,754	106.07%
2021年	37,859	122.40%	2,872,154	131.42%	61,502	133.00%	4,347,086	139.74%
2022年	49,577	130.95%	3,801,215	132.35%	78,164	127.09%	6,003,016	138.09%
2023年	44,549	89.86% ★	3,836,253	100.92%	72,754	93.08% ★	6,526,017	108.71%

★印は過去最高

2. 国・地域別 輸出額の推移

金額(千円)

	全国										
	世界										
	北米	構成比	西欧	構成比	アジア (中国除く)	構成比	中国	構成比	その他	構成比	
2014年	1,878,318	925,424	49.27%	443,341	23.60%	271,178	14.44%	41,005	2.18%	197,370	10.51%
2015年	2,127,608	943,620	44.35%	558,553	26.25%	354,148	16.65%	92,666	4.36%	178,621	8.40%
2016年	2,118,466	919,124	43.39%	660,542	31.18%	298,495	14.09%	78,603	3.71%	161,702	7.63%
2017年	2,067,042	902,667	43.67%	570,635	27.61%	289,010	13.98%	89,337	4.32%	215,393	10.42%
2018年	3,123,588	1,425,130	45.62%	811,891	25.99%	495,057	15.85%	131,772	4.22%	259,738	8.32%
2019年	2,932,875	1,321,759	45.07%	830,940	28.33%	460,635	15.71%	80,182	2.73%	239,359	8.16%
2020年	3,110,754	1,354,379	43.54%	884,524	28.43%	363,777	11.69%	228,692	7.35%	279,382	8.98%
2021年	4,347,086	1,719,142	39.55%	1,085,028	24.96%	539,017	12.40%	499,957	11.50%	503,942	11.59%
2022年	6,003,016	2,345,365	39.07%	1,808,396	30.12%	738,665	12.30%	497,614	8.29%	612,976	10.21%
2023年	6,526,017	2,574,230	39.45%	1,727,650	26.47%	918,417	14.07%	795,327	12.19%	510,393	7.82%

金額(千円)

	名古屋税関										
	世界										
	北米	構成比	西欧	構成比	アジア (中国除く)	構成比	中国	構成比	その他	構成比	
2014年	1,095,553	618,394	56.45%	273,389	24.95%	111,257	10.16%	4,901	0.45%	87,612	8.00%
2015年	1,242,272	610,126	49.11%	416,176	33.50%	127,857	10.29%	5,425	0.44%	82,688	6.66%
2016年	1,411,831	705,352	49.96%	485,572	34.39%	126,706	8.97%	2,822	0.20%	91,379	6.47%
2017年	1,304,634	681,082	52.20%	399,485	30.62%	121,926	9.35%	4,117	0.32%	98,024	7.51%
2018年	2,146,020	1,140,831	53.16%	597,610	27.85%	259,428	12.09%	5,846	0.27%	142,305	6.63%
2019年	2,032,882	1,047,333	51.52%	560,624	27.58%	298,700	14.69%	4,254	0.21%	121,971	6.00%
2020年	2,185,546	1,096,301	50.16%	655,311	29.98%	160,293	7.33%	132,930	6.08%	140,711	6.44%
2021年	2,872,154	1,312,448	45.70%	746,759	26.00%	224,774	7.83%	342,665	11.93%	245,508	8.55%
2022年	3,801,215	1,796,239	47.25%	1,130,789	29.75%	264,865	6.97%	292,447	7.69%	316,875	8.34%
2023年	3,836,253	1,463,780	38.16%	1,188,725	30.99%	369,876	9.64%	552,235	14.40%	261,637	6.82%

3. 管内における 国・地域実績【2023年】

名古屋税関					
国・地域名	数量(本)	構成比	金額(千円)	構成比	単価(円/本)
北米	17,783	39.92%	1,463,780	38.16%	82,313
	アメリカ合衆国	17,511	39.31%	1,426,840	37.19%
	カナダ	272	0.61%	36,940	0.96%
西欧	12,557	28.19%	1,188,725	30.99%	94,666
	オランダ	5,818	13.06%	436,954	11.39%
	ドイツ	3,391	7.61%	385,785	10.06%
	英国	1,336	3.00%	153,374	4.00%
	その他	2,012	4.52%	212,612	5.54%
アジア	10,711	24.04%	922,111	24.04%	86,090
	中華人民共和国	5,861	13.16%	552,235	14.40%
	シンガポール	1,148	2.58%	71,558	1.87%
	香港	1,106	2.48%	84,113	2.19%
	大韓民国	1,018	2.29%	94,572	2.47%
	その他	1,578	3.54%	119,633	3.12%
	その他の地域	3,498	7.85%	261,637	6.82%
計		44,549		3,836,253	
					86,113

4. 税関別実績【2023年】

税関	数量(本)	構成比	金額(千円)	構成比	単価(円/本)
名古屋税関	44,549	61.2%	3,836,253	58.8%	86,113
名古屋	40,711	56.0%	3,354,485	51.4%	82,398
	2,612	3.6%	349,628	5.4%	133,855
	1,226	1.7%	132,140	2.0%	107,781
東京税関	13,618	18.7%	2,148,595	32.9%	157,776
	7,387	10.2%	1,061,764	16.3%	143,734
	6,228	8.6%	1,086,307	16.6%	174,423
	3	0.0%	524	0.0%	174,667
横浜税関	5,523	7.6%	75,663	1.2%	13,700
	5,509	7.6%	73,149	1.1%	13,278
	14	0.0%	2,514	0.0%	179,571
その他の税関合計	9,064	12.5%	465,506	7.1%	51,358
全国税関 合計	72,754		6,526,017		89,700

- ・本資料は統計として比較可能な 1988 年以降のデータを基礎としています。
- ・本資料の輸出数量及び金額は、2022 年以前は確定値、2023 年は確々報値となります。
- ・本資料の円グラフについて、四捨五入処理により総計が 100% とならない場合があります。
- ・本資料を引用する場合は、名古屋税関の資料による旨を注記してください。
- ・本資料に関するお問い合わせは、名古屋税関 調査部 調査統計課 (TEL052-654-4176) までお願いします。
また、貿易統計は名古屋税関 HP でもご覧いただけます。《 <https://www.customs.go.jp/nagoya/> 》